

## 九州地区若手ケミカルエンジニア討論会に関する、 「当時の参加者」へのアンケート 集計結果

### アンケート依頼文：

はじめに 化学工学会九州支部若手の会、および化学工学会九州支部若手ケミカルエンジニア連絡会(Q・NET)は、九州地区若手ケミカルエンジニア討論会を中心とした若手の会活動を長年行っており、この度、平成 22 年度化学工学会 地域 CT 賞(支部活動等を一層活性化させるために、学会に貢献した活動を表彰する)を受賞しました。討論会は今年で22回を数え、この度の受賞を受けて、今後の活動の充実・活性化を図ることを目的に、アンケートを実施することにいたしました。過去に「九州地区若手ケミカルエンジニア討論会」に参加され、現在各方面で活躍される皆様より、「あの討論会は役に立ったのか？」という観点からご意見を頂くことで今後の活動の活性化に役立てたいと思います。ご協力をよろしくお願い申し上げます。末筆ながら皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

平成 23 年度 化学工学会九州支部若手ケミカルエンジニア連絡会(Q・NET)会長  
大島達也(宮崎大学)

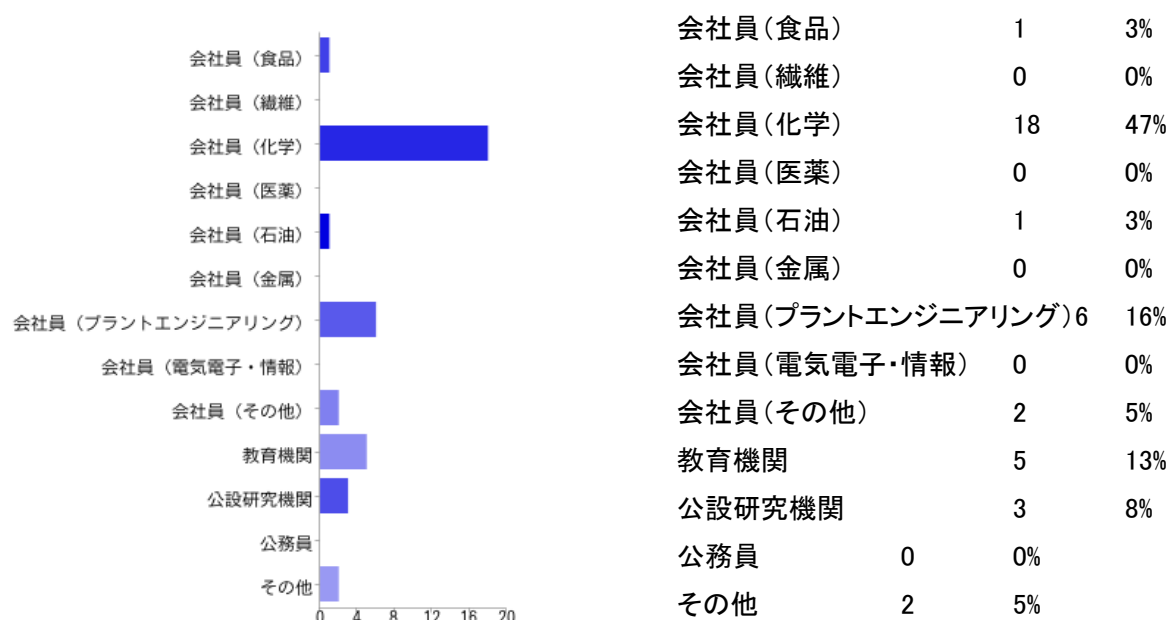
アンケートの取り扱い方針：・統計結果やコメント・メッセージは、化学工学会若手の会・九州支部で使用させていただきます。H24 年度の九州地区若手ケミカルエンジニア討論会で、統計結果とメッセージを学生に紹介する計画です。

アンケート実施方法:WEB での回答

アンケート実施期間: 平成24年1月13日～2月16日

回答者38名 集計結果

### 職業



### 男女構成

男	37	97%
女	1	3%

討論会参加時の所属

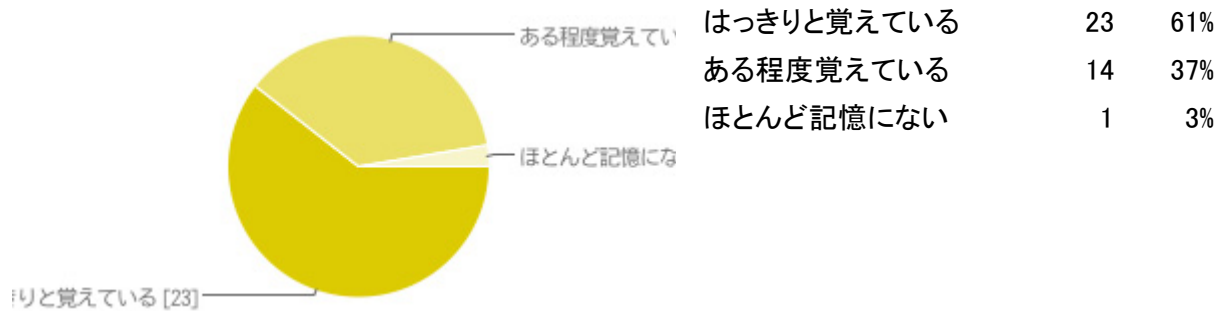
九州大学	12名
佐賀大学	4名
北九州市立大学	2名
鹿児島大学	12名
大分大学	1名
宮崎大学	6名
不明	1名

討論会に参加した年

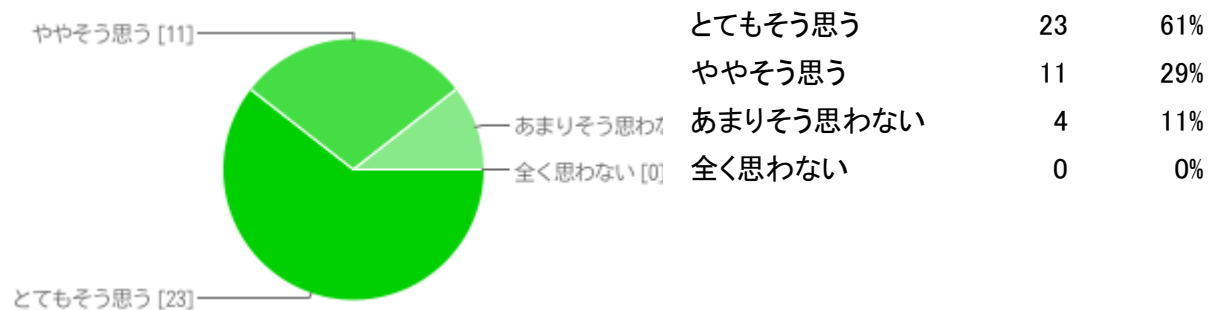
1990年(新日鉄高見研修センター(北九州))	0	0%
1991年(東洋陶器(株) 第一研修センター大ホール(北九州))	0	0%
1992年(竜田荘(熊本))	0	0%
1993年(新日鉄研究センター攻玉寮(大分))	0	0%
1994年(福岡県立飯塚研究開発センター(福岡))	0	0%
1995年(国民宿舎さのさ荘(鹿児島))	2	5%
1996年(国民宿舎 芥屋(福岡))	0	0%
1997年(佐賀大学工学部 ヘルシーパルさが(佐賀))	1	3%
1998年(国民宿舎 青島(宮崎))	2	5%
1999年(国民宿舎 志賀島苑(福岡))	2	5%
2000年(九州地区国立大学九重共同研修所(大分))	0	0%
2001年(九州地区国立大学九重共同研修所(大分))	1	3%
2002年(九州地区国立大学九重共同研修所(大分))	4	11%
2003年(休暇村指宿 なのはな温泉館(鹿児島))	2	5%
2004年(原鶴グランドスカイホテル(福岡))	0	0%
2005年(つるみ荘(大分))	2	5%
2006年(湯田温泉旅館常盤(山口))	3	8%
2007年(宮崎観光ホテル(宮崎))	4	11%
2008年(阿蘇プラザホテル(熊本))	6	16%
2009年(阿蘇プラザホテル(熊本))	3	8%
2010年(熊本大学工学部百周年記念館(熊本))	4	11%
2011年(ホテル霧島キャッスル(鹿児島))	2	5%

## アンケート項目・回答結果

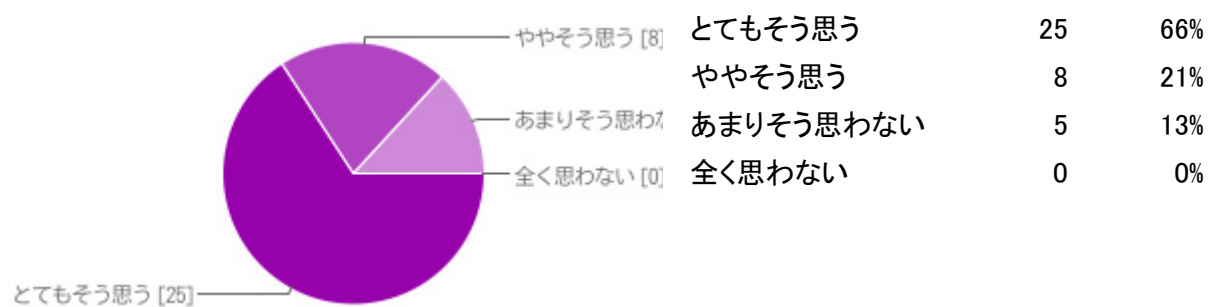
1. 九州地区若手ケミカルエンジニア討論会(以下、討論会)に参加したことを覚えていますか？



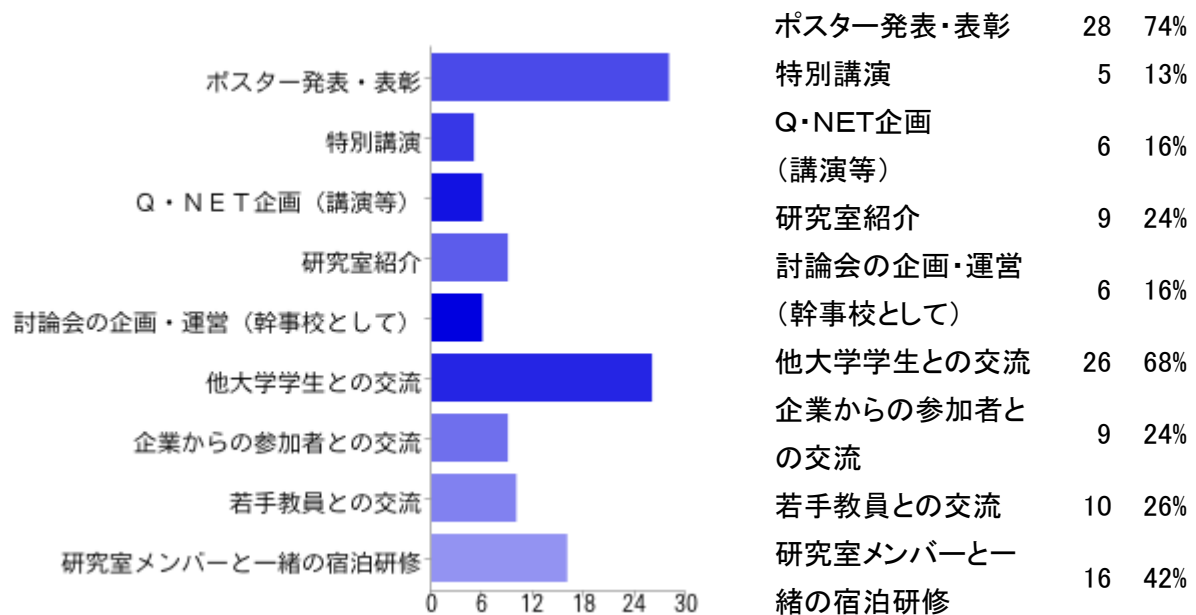
2. 今振り返って、討論会に参加したことをよかったと思いますか？



3. 化学工学会での活動(学会発表、討論会参加、若手の会活動など)が現在のお仕事・ご活動に役立っていると思いますか？



4. 九州地区若手ケミカルエンジニア討論会における内容で、現在のお仕事・ご活動などに役立つ経験になったと思われるものを挙げてください。(複数回答可)



5. 学生時代の学会活動について、印象に残っている出来事などがあれば、自由にコメントください。

【回答】

- ・ 年会で全国の化工学生と知り合えたことは今でも糧になっている。
- ・ 学生賞などは非常によい企画だと思います。また、若手の会とは直接関係ないかもしれませんが、日韓シンポは外国の研究者と初めて触れ合った学会で、つたない英語でのやり取りでしたが、アジアでの交流を深める第一歩として非常によかったです。
- ・ 研究内容の枠を超えて様々な大学の学生と交流することで、今までにない新しい考え方や新しい友人を持つことができました。
- ・ 若手の会のおかげで他大学との知り合いが出来、学会の際には質問しやすく、技術交流が盛んに行うことができた。
- ・ たくさん行かせて頂きました。それらの全てが良い思い出です。とくに沖縄での学会は楽しかったです。
- ・ KAIST 国際学会に M1 で参加した時、初めて英語でプレゼンする機会がありました。自分が話す内容は事前に用意して、練習すればなんとかなるものかもしれませんが質疑応答を外国人英語でされた時、正直何を質問しているかわからず、アタフタしただけで何の回答も結局できず、終了したことを覚えてます。ここから学んだことは、やっぱ英語でコミュニケーションとれないとダメだなということです。いくら、いい研究結果をまとめても自分でPRできる力と相手の意見を聞きとる力がないとそれ以上発展しません。学生のうちは恥をかいて学ぶことも大切だと思うので、学会に出れるチャンスがあればどんどん応募して経験してください。
- ・ 人生で初めての学会発表でした。おそらく、本会が学会デビューの方が数多くいらっしゃるのではないのでしょうか？
- ・ 他研究室との交流や、企業の方とお酒を交わしながら話せたのは貴重な体験だった。また、学会でのプレゼン資料の作成や、発表の仕方などは、会社に入ってから活かせるスキルになると思う。

- ・ 若手の懇親会で、企業の方とお話できたのが、印象に残っています。また、発表では、企業の方にプレゼンまたは、企業の方のプレゼンを聞くことはなかなか無かった経験なのでいい経験をさせていただけたと思います。
- ・ 九州支部若手の会も良い経験であったが、韓国と共同での学会(学会名は忘れましたが)の英語でのプレゼンや公聴は非常に良い経験でした。内容云々よりも海外を強烈に意識させられました。
- ・ 研究発表を行うに当たって、自身が取り組んだ内容をわかりやすく伝えるにはどうすればよいか。学生時代に経験しておいて良かったと思う。
- ・ 所属研究室の教員を通じて、他大学の先生や学生達と語り合えたこと
- ・ 韓国での学会活動。懇親会で仲良くなった韓国人と一緒に飲みに行ったのがとても印象に残っている。また英語力等とても刺激になった。
- ・ 興味ある研究内容の発表を聞いて、自分の実験のヒントを得ることができ、改善につなげることができた。
- ・ 発表前は緊張していたが、発表を終えたときの達成感が良かった。
- ・ 海外でのオーラル発表。たどたどしい英語での発表を思い出すだけで恥ずかしいけど貴重な経験ができたと思う。
- ・ 英語での発表がとてもいい経験になった。
- ・ 研究発表や自分の考えを発表する機会が増えることで話す能力の向上につなげられると思われます。また、違う考えをもつ方との討論は研究に幅をもたせれる。
- ・ すみません、ほとんど記憶にないためコメントできませんが、その他の学会では、韓国の大学、九州大学、鹿児島大学のメンバーと発表会、懇親会(韓国人とは飲み会で英語で話した)を行った経験はかなり良かったと思う。プレゼンテーション能力向上は社会人として一番必要と感じる。
- ・ 本会で一番印象的であるのは、本会の雰囲気が良いせいもあり、他大学の先生から研究以外の様々ご意見をもらえたことです。

6. 現在のお仕事・ご活動を踏まえ、学会の若手の会で行うべき企画などがあれば、自由にコメントください。

【回答】

- ・ 今現在、年会時に学生間の交流は行われているのでしょうか？ 支部に留まらず、広く知り合いを増やす機会があると良いと思います。
- ・ 長年若手会へ参加しておりませんので現在の状況を踏まえずに私見を述べますことを御許してください。若手の会は大会と違って自由にプログラムが組める場ですので、化工以外で活躍する若手研究者を招待し、化工ではあまり展開されていない研究を知る機会を設けても良いのではないかと思います。

私が参加していたころは、学外の友達が作れるなど雰囲気は大変良いのですが、メンバーがある程度固定されていることからのマンネリ感があり新しいことを知る刺激のある場ではありませんでした。他の学会に所属する研究者に、化学工学会の活動を周知するためにも、化工に限らない研究の紹介やセミナーなどを織り込むことも意義があるのではないかと思います。

- ・ 九州の若手の会(若手ケミカルエンジニア討論会)では、学生は同じ研究室もしくは同じ大学のひとしか接していないような気がしましたので、他大学の先生や学生とうまく交流できるような場があれば

ばいいと思いました。(例えば、安直かもしれませんが、懇親会での席をくじ引きにするとか。)

- ・ 現状のままでよいと思います。
- ・ 内容をより充実させ、若手の会を今後も引き続き行って欲しいと思います。講師の講演などは分野が異なれば難しい話になり、話を聞かず寝てしまうことが多いと思うので、企業の若手研究者などの実際の仕事内容の紹介とかも面白いと思います。
- ・ 分野を超えた国内外の著名な研究者を招待する企画などがあれば、より刺激的で良いと思う(予算次第だが)。
- ・ 学生のプレゼンは英語での発表を義務づけてはどうでしょうか？英語は国際舞台で活躍するには必須です。まずは、このような若手の会なので度胸と経験を積ませることも一つ教育という意味で意義あることだと思います。その他積極的に他大学、他研究室のメンバーと交流するために、チームワーク作業(内容はなんでもいい)をするイベントがあるといいと思います。さらにその後の夜の懇親会で親睦も深まり、人とのつながりの大切さが学べるはずです。
- ・ 他の学会(例えば、分析化学会)の若手交流会と比べても、化工の方がかなり優れていると実感します。それは、学生が主体となり運営・幹事を行うからです。これは他の学会にはない、素晴らしいことだと思います。
- ・ 今のままでも十分良いと思う。
- ・ 現状のままでよい
- ・ 化学工学会の社会での立ち位置や役割を改めて認識させる企画
- ・ 自社および他社の生産技術/エンジ部門の若手技術者の技術力低下を良く耳にする。機械自体の性能や計算ソフトの発展に伴い、化学工学による設計/解析、運転操作に対する自分なりの意識や興味が薄れているのではないか？学会でもどちらかという、ナノや最先端のファインケミカルの研究発表が重視されていると思われる。これは仕方のないことだと思うが、化学工学者に求められるのは研究以外の部分が多い。そこで、実際どういった分野で働いているかや、仕事に必要な知識や経験等を先輩方に講演してもらうのも将来のためになると思います。
- ・ 研究フロー、マトリックス作成等の勉強会
- ・ 企業と学校の交流を活発にすべき。
- ・ もっと活発に他校の人と話せるように、運営側から背中を押してあげるような企画も必要だと思う。ポスター発表でも同じ大学で固まっていることが多いので、ポスター発表の前に余興を試みるのもいいと思う。
- ・ 現状のままでよい。
- ・ 現状のままでよい。ただし、学会に初めて参加する人が多いので、講演内容は分かりやすく若者受けするものが多い。化学工学の社会での活躍の場を幅広く紹介するとか・・・
- ・ 企業との交流を増やしてもらえると、学生にもいい刺激になると思います。また、企業側も最先端の研究を知ることができ大変助かります。
- ・ 上にも書きましたが、プレゼンテーション能力を向上させる学会は積極的に行うといいと思う。
- ・ 九州地域の各大学には本会で育った教員が多くいるので、幹事校担当の企画もよいが、大学間で執り行えるような合同企画もおもしろいのではないかと思います。

7. 現在のお仕事・ご活動を踏まえ、化学工学分野で学ぶ学生に伝えたいメッセージがあれば、自由にご記入ください。

【回答】

- ・ 分野に捉われず、学内に留まらず、広く勉強・交流をして下さい。
- ・ 研究はチームワークが重要です。勉強と同じくらい、コミュニケーション能力も磨いてください。
- ・ 私は応用化学出身でしたので、化学工学全般に関する勉強をまんべんなくしておけばよかったと思いました。大学のカリキュラム的にはそれが難しいところもあるかもしれませんが、若手会などで分野の異なる他研究室のポスター発表を聞いてみるというのもいいかもしれません。学生同士だとお互い「まだ専門家ではないのでちょっと教えてください」というような感じで気軽に聞くことができ、障壁が少ないと思います。
- ・ 化学工学の基礎をしっかり学ぶこと。シミュレータは化学工学の基礎理論をしっかり理解した上で使用すること。
- ・ 他大学の先生、学生といろいろな意見交換をした方が良いと思います。
- ・ 自分の研究内容に関する知識だけでなく、様々な分野の学問に目を向ける癖をつけておくと、会社に入ってから非常に役立つと思います。私はできていませんでしたので、苦勞しております。
- ・ 就活にはある程度良い成績が好ましいので、最低限の勉強はしましょう。しかし化学系の会社に入っても化学とは異なる業務をすることが多いので、幅広く勉強・経験してほしいと思います。アルバイト、サークル、ボランティア等、年代の異なる人との交流も重要だと思います。
- ・ 自分のやっている研究分野にとどまらず、あれこれアンテナを広げると良い。
- ・ ずばり英語を勉強しておいたほうがいいです。他のアジアの諸外国の学生は英語でのコミュニケーションはあたりまえです。日本人は技術をもっているが、国際舞台でそのプレゼンスを発揮できないのは、英語能力が劣っているといても過言ではないと思います。その技術をアピールする能力を身につけるために、英語、人付き合いも大事にしていろいろな経験をしてください。

さらに自分が将来就職する会社にもよるでしょうが、大学3年次から学ぶ化学工学の基礎学問(特に流体工学、物理化学、伝熱工学)はしっかりと理解しておいたほうが、会社に入って苦勞することは少ないでしょう。

自分も学生時代そうでしたが、大学の専門教育が何のための勉強なのかよくわかっていなかったもので、勉強に興味がありませんでした。ただ、就職するとその重要性を痛感したので、もっと勉強しておけばよかったと思うひとはたくさんいるはずですよ。

何のために(どういった分野で)今学んでいる学問が必要になるか明確にした教育をしてあげること、学生のやる気も引き立つと思います。

- ・ よく学び、よく遊んでください。どちらかに偏らないように。文章をかける学生の方がへったと言われる(私も含め)
- ・ 一つのことに注力して勉強するより、多くの基礎を知っている程度に勉強していたほうが、次のステップにつながると思う。
- ・ 定期的に運動をして、健康診断に引っ掛からないように！
- ・ まじめな話、英語は必須です。必ずやっておくべき。

学問以外では、個人的に九州出身者の人間性といえますか、【明るく大らかで気前がよく人付き合いに長ける】ような性格は将来役に立つと思います。九州の大学は相対的に見ても飲み会(交流)が

多かったのかなと社会人になって感じます。性格や社交性というのは、社会に出てからでは鍛えにくく。学問も大事ですが、やはり人付き合いなくして仕事は上手くいきません。遊びまわることも重要です。できれば、合コンや飲み会等色々な人と触れ合う場に積極的に参加し、人との接し方をケースバイケースで自分なりに習得しておくのが良いかと思います。

- ・ TOEIC か TOEFL 受験、化学工業系資格(危険物取扱、公害防止管理者など)の資格取得
- ・ ・人とのつながりを大事にする。
  - ・専門分野に関わらず色々な分野に興味を持つ。
  - ・積極的に物事に取り組む姿勢を持つ。”
- ・ 化学だけでなく色々な事に興味を持ってがんばってください。特にお酒は大事です。
- ・ 幅広く知識を持つと会社の話についていきやすいこともあります。せめて自分の研究室の研究テーマについては理解しておくといいと思います。ほかの研究室のテーマについても理解しているとベターです。
- ・ 授業で学ぶ際に、有機・無機・化学工学などいろいろな分野に触れていた方がいい。理由としては、会社に入った際にこれまで学んできた分野とは違う仕事に携わることもあり、幅広い知識を頭の片隅にでもあった方が理解や仕事への取り組みやすさは全く知らない人よりも早いと思う。さらに、問題解決に対しても、いろいろな視点からのアプローチがし易い(会社によっては、勤続年数が増すにしたがって多面的な考え方が出来なくなって頭が固くなる場合があるため)
- ・ 英語の勉強、化学に関連する資格を取っておいたほうがいい。
- ・ もっといろいろな経験をした方がいい、何にでもチャレンジ！社会に出てきつと役に立つから。
- ・ 何でもいい、真剣に取り組む、真剣に悩んで下さい。
- ・ 海外に興味をよもったほうがいい。中国、韓国は現状の取引でも多い。相手をしることで親しみが持ちやすくなる。
- ・ 下記スキルアップを向上できればどの業界でも役立つと思います。
  - ① ミュニケーション能力
  - ② プレゼンテーション能力
  - ③ 英語
- ・ 研究のための情報収集のためには、英語は必須である。
  - ・最近の学生はものを書くことがにがてなのか(ゆとり世代の弊害??)、日本語での文章がまともにならなくなっている。日本人であるので、日本語はしっかりとしてもらいたい。
  - ・化学工学分野を専攻しているのであれば、化学工学基礎科目(化学工学基礎、熱力学、移動現象論、単位操作、反応工学、プロセス制御などの講義科目)は完璧に習得しておくこと。

以上